

西田幾多郎新資料翻刻プロジェクト  
と  
京都学派アーカイブ  
について

2019.02.01@歴博研究会  
京大文学研究科  
現代文化学系 メディア文化学専修  
教授 林晋

# まずは講演者の自己紹介 1/2

- もとは数学者で学位も数学。その後、情報科学・工学に転向。文科省、経産省のシンクタンクでITやAI関連の政策研究も行う。
- この間に数学史の研究を開始。その関係で京大文学研究科に転職。
- 歴史研究のために、[史料分析用ツールSMART-GS](#)を開発。その関係で、京都学派の哲学者田辺元が遺した史料の研究を開始。これはSMART-GSの普及のために始めたもので、直ぐに止める予定だったが、やっていた数学史に深く関連することがわかり、面白くなって京都学派とその時代の哲学の歴史学的研究にのめり込む。
- [京都学派アーカイブ](#)を開設。準備中の[新版アーカイブ](#)。今月か来月には、新版アーカイブを公開する予定。林は3月末で定年退職となるので、来年度からは、京大文、日本哲学史専修に移譲し、ボランティアで運営・拡張を続ける。

# まずは講演者の自己紹介 2/2

- これ以外も、色々とやってきた、また、やっている。例えば、[西田幾多郎一家が住んだ家の保存活動\(2015-6\)](#)。
- 基本的には、社会の近代化についての歴史学、歴史社会学の研究が仕事のコアで、それから派生したSMART-GSや京都学派アーカイブの様な仕事もやっているということ。
- コアの方で知りたかったこと、そのために京大文に転職したことは、2017年までに一応の結論が得られた。[これとこれ](#)。後者は長年京大文で2回生向け講義としてやっていたことを関西大の非常勤で講義した際の資料。ITが現代資本主義と如何に関連しているかを歴史社会学の方法論で示した研究の成果。講義しているだけで、本や論文にはしていない。前者も講演しただけで、まだ、書籍などとしては出していない。
- コアの部分の研究が一段落したので、今は、派生の部分が日々の仕事の大きな部分を占めている。今日は、そういうものから、二つ紹介。

# 今日、お話しする内容

- 今日、お話しするのは、次の二つ。ただし、二番目のはおまけ程度の予定で、時間が足りなかったら話さない:
1. 西田幾多郎新資料翻刻プロジェクト@京大
  2. 京都学派アーカイブ新バージョン

# 西田幾多郎新資料翻刻プロジェクト@京大

- 西田プロジェクトとか、西田幾多郎新資料翻刻プロジェクトと、林が勝手に呼んでいるものは、正式には2015年から始まった「西田幾多郎未公開ノート類研究資料化」という、石川県かほく市の西田幾多郎記念哲学館（以後、西田哲学館）のプロジェクトのサブプロジェクトで、京大が参加したのは2016年度末。もっと正確に言うと、これは、京大が、かほく市から引き受けている受託事業。
- かほく市西田哲学館のプロジェクトの最初の報告書を回覧します。
- 新聞社のWEB記事を使って説明：
  - [京都新聞](#)
  - [日本経済新聞](#)
  - [金沢大学](#)
  - [もう一つ京都新聞](#)

# 京大での翻刻・調査作業の説明

- [SMART-GS](#), DropBox, Skype
- SMART-GSは2011年に公開を始めた Open Source のツールで、基本的には古いアーキテクチャに基づく。もともとは一人の歴史家(自分！)が使うために作ったもの。
- しかし、同僚だった日本近代史の[永井和氏の倉富勇三郎日記翻刻・研究プロジェクト](#)でのSMART-GSの使い方を見て、複数人で使うようにデザインを変えていった。ただし、これは複数の人が一堂に会して、先ほどの[京都新聞の記事](#)の写真の様に、プロジェクタでSMART-GSを投影して、その場で議論するという方式。WebDAVなどのネットワーク上の共有機構もつけてはあるが、基本的にはスタンドアローンのツール。

## DropBox によるデータ、ツールのネット上共有 1/2

- 西田幾多郎新資料翻刻プロジェクト(以下、西田プロジェクト)は、かほく市の西田記念館、金沢市の金沢大学、そして、京都大学の地理的離れた三者によるプロジェクトなので、どうやって元データ(史料画像)や翻刻結果(SMART-GSのファイル形式である gsx ファイル)を共有するかが問題となった。また、ITに強い人がいない西田記念館のために、SMART-GSのインストールやメンテのサポートをする必要があった。
- それで、最初は、みんなで翻刻の使用も検討したが、史料提供元の西田家の意向で史料画像の公開ができないこと、みんなで翻刻では、必要とされる機能が十分ではないことなどから、これは断念。
- で、考えたのが、DropBoxでデータだけでなくツールもネット上共有する方法。

## DropBox によるデータ、ツールのネット上共有 2/2

- デモをしながら説明するが、アイデアは簡単で、Java アプリである SMART-GS は、レジストリなどに依存しないので、Javaが正しくインストールしてあるPCならば、DropBox フォルダに置いておけば、フォルダの同期を行うだけで、インストールが完了してしまう。
- さらにいえば、JavaをDropBoxフォルダのどこかにインストールしておけば、DropBox フォルダの同期だけで、すべての準備が終わる。つまり、DropBox を使う能力がある人たちのチームならば、林が、そのチームの史料研究のための SMART-GS環境を作るだけで、研究を開始できることになる。
- また、メンテも、遠隔で林が行える。
  - これは実例があり、西田哲学館のPCで障害が発生して、哲学館がローカルに使っていた SMART-GSが使えなくなったとき、関連するフォルダを丸ごと、指定した場所に置いてもらい、林が直して、戻したという例がある。
  - マイクロソフトなどがやってくれる遠隔地サポートが、レジストリーフリーツールならば、DropBoxだけでできるということ。



# 参加人員とプロジェクトの遂行の方式

- 現在、翻刻担当者と調査担当者を合わせて20名近くの人員が翻刻・研究に従事している：学生・院生15名（ドイツ語学ドイツ文学専修、日本哲学史専修、宗教学専修、情報・史料学専修）、林が雇用している研究員2名、そして、西田哲学館の研究員1名と林。
- 使用としているPCは参加人数より若干少ない程度。
- 翻刻遂行の方式は、参加メンバーに任せているが、主に使われているのは、ドイツ語学ドイツ文学専修の院生が考え出したペア翻刻ともしたチーム翻刻。

# ペア翻刻によるチーム翻刻

- ソフトウェア工学の概念にペア・プログラミングというものがあるが、それに似た方法。
- かなりの数の院生・学生が一部屋にあつまり、何個かのペアに別れ仕事を進める。
- ペアの一名がテキストを読み上げ、もう一人が入力する。どちらも、かなりの能力を持つ人なので、一人が間違えても、もう一人が修正できる。
- また、二人ともわからない場合は、他のペアに助けを乞う。
- この方式だと翻刻のスピードが驚くほど速い。

# 技術的話：この方式の問題点と解決法

- 同時に仕事を進めるので、通常だと、同じ gsx ファイルを編集することになってしまう。
- 編集衝突が起きる！
- それで、各史料に対して、各人専用の gsx ファイルを作り、終わった所で、ひとつにまとめることになる。
- 史料数 × 人数になるので、データファイルも、コマンド (BAT ファイル) も膨大になるので、それらを生成するプログラムを作って対応している。

# ビジネスの可能性

- 西田プロジェクトでは、チームリーダーの林が、京大院生、学生、OD(研究員はOD)史料翻刻・研究を率いるだけでなく、技術者としての役割も果たしている。
- このことを考えると、京大が西田哲学館に提供しているのは、次の二つと言える：
  - 西田史料を読み調査する人文学の能力：ドイツ語などの語学、哲学の知識が必要。
  - SMART-GSで史料研究を行う情報技術の能力。
- 後者は、方式が確立しているので、ITができる人ならば誰でもできる。しかし、前者は、今、京大で提供しているほどの人文知のパワーを提供できる所は、おそらく日本でもほとんどないはず。
- と、考えると、これを料金をとってビジネスにすることが考えられる。
- 現在、ある会社に提案中。